

夏焼き～火入れ

1. 実施日時 平成29年8月6日（日） 6：30～16：00
2. 実施場所 仁多郡奥出雲町佐白地内（ダムに見える牧場林地）
3. 参加者数 火入れ従事者17名（奥出雲町、雲南市、広島県庄原市／島根大学学生・教員）
総務スタッフ1名／見学者5名（奥出雲町、雲南市、神戸市）
※総勢23名
4. 概要 11時30分着火、13時00分延焼終了、13時30分鎮火。
快晴、気温38℃、湿度40%、東の風1m～3m（着火時）。
火入れ面積約4アール。15時30分～小そば1.5kg播種。
5. 今後の予定
 - 調査記録まとめ
3年間をまとめた記録
 - 播種と作物の生育状況調査、間引き、収穫
小そばの間引き後、混植区画を設定し実験的栽培を行う。カブ、タマネギ、ニンニク、ネギ、ニンジン、小麦、ハウレンソウ、ビーツ等。
 - 夏2回めの火入れを9月に計画しており、該当地の整備活動。
 - アワ、キビ、地カブなどの在来作物調査ならびに伝統食文化調査。奥出雲地域での実践と応用を目的とした焼畑の技術・文化・歴史の資料集成。
 - 春焼地で栽培中の雑穀、豆類の乾燥・脱穀・調製の準備（場所・機具選択）と方法の検討。

6. 現況写真

▼防火帯散水、エンジンポンプ動作確認、人員配置確認後、風下山手より着火。



▼着火後約1時間で区画の3分の2まで延焼。



▼13時00分には延焼終了（区画末端まで燃焼）、13時30分鎮火確認。14時30分防火放水。15時30分蕎麦播種。



7. その他（経過と要検証事項等）

●時間経過

- 6:30 先発着・準備開始
- 7:30 参加受付開始
- 8:10 松江先発部隊到着
- 8:20～ ミーティング後、準備開始
- 11:20 火入れ式（東からの風3m…火入れ局地／気温38℃／晴れ／湿度不明）
- 11:30 着火（人員配置：山腹部10、飛火監視2、山下4）
- 12:30 予定区画の3分の2まで延焼。
- 13:00 予定区画末端まで延焼
- 13:30 鎮火確認
- 14:30 消火確認、防火放水、防火機具撤収
- 15:20 播種・解散
- 16:00 居残部隊、撤収
- 16:30 火入れ責任者、現場確認後撤収

●飛び火と延焼速度など

- ・飛び火は今回発生せず。
- ・燃焼に使った竹桿の7割～8割は昨年伐採したもので、2割～3割が14日～30日前に伐採したものである。直前2週間は降雨がなく、高温晴天の日が続いていた。土中と周縁部の水分量も、夏の火入れでは最も低かったと思われる。防火帯にある土中の枯根にも火がまわるところがあった。

毎回の課題であるが、伏込む材の量と延焼の発生臨界温度との相関を、これまでの火入れとあわせて整理しておく必要がある。燃焼末端においては風が延焼をひろげる要因として大きいことが今回もうかがえた。山形県温海地方では火のついた材をかき集めることでそれをはかっているようだが、さらに手法として検討したい。

- ・延焼速度は記録を再検証中であるが、これまででもっとも早いと思われる。燃材は着火点は膝上まで程度だが、それ以降は膝下程度であり少なかった。
- ・燃え残りが炭も含めてほとんどなく、きれいに灰になっている点は昨年同様完全に燃えたことになる。今回の要因としては風が逆向きに吹いていたためと思われる。

●種の発根

- ・7日降雨、8日午前に発根を確認。覆土なし。枯死も多いと思われるが、経過を観察し、9日ならびに14日を目安に追い蒔きの予定。



†. 平成29年度竹の焼畑事業は「竹の焼畑2017」と呼称。奥出雲山村塾、里山管理研究会、森と畑と牛と、ダムの見える牧場が主要主体となって取り組んでいる事業です。